

平成22年度 業務実績報告書

参考資料集

平成23年6月

公立大学法人 名古屋市立大学

目次

中期計画 No.	年度計画 No.	資料名	頁数
2	1	平成 23 年度入学試験志願者数等調	1
15	6	情報処理教育における自己教材について	3
25	11	「事例研究特論」シラバス	8
25	11	「新事業創造論」シラバス	10
42	24	「マーチャングライディング・デザイン論」シラバス	12
74	41	子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）について	14
90	54	平成 22 年度 Human & Social サイエンス・カフェ実施概要	18
90	54	平成 22 年度マンデーサロン実施概要	19
90	54	名古屋市立大学開学 60 周年記念シンポジウム開催報告 国際シンポジウム「生物多様性の科学ーゲノム・進化と環境ー」	20
95	55	平成 22 年度 Human & Social サイエンス・カフェ 実施概要	18
95	55	名古屋市立大学開学 60 周年記念シンポジウム開催報告 市民公開シンポジウム「食からみる生物多様性の世界」	20
95	55	平成 22 年度市民公開講座実施概要	25
95	55	平成 22 年度授業公開実施概要	26
95	55	平成 22 年度サイエンスカフェ イン 名古屋 実施概要	27
104	57	名古屋市立大学開学 60 周年記念シンポジウム開催報告 国際シンポジウム「生物多様性の科学ーゲノム・進化と環境ー」	20
108	58	子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）について	14
113	59	市民公開シンポジウム 「くらしの中のバイオテクノロジー～バイオの安心・安全～」	28
113	60	「デザインと持続可能な未来社会」シラバス	29
172	110	管理経費の前年度比較	31
173	111	電気・ガス・水道の使用量等	32

【中期計画2、年度計画1】

平成23年度入学試験志願者数等調

平成23年4月1日

学部	学科	日程	入学定員	志願者数	志願倍率	2次試験受験者数	合格者数	追加合格数	最終実質倍率	入学者数
医学部		前期日程	80	406	5.1	377	80	1	4.7	80
		後期日程	10	80	8.0	37	10		3.7	10
		地域推薦枠	5	31	6.2	20	5		4.0	5
	学部計		95	517	5.4	434	95	1	4.5	95
薬学部	薬学科	推薦A	6	43	7.2	43	6		7.2	6
		推薦B	10	47	4.7	47	10		4.7	10
		中期日程	44	907	20.6	620	130		4.8	63
		学科計	60	997	16.6	710	146		4.9	79
	生命薬科学科	推薦A	4	14	3.5	14	4		3.5	4
		推薦B	4	7	1.8	7	4		1.8	4
		中期日程	32	444	13.9	318	93		3.4	47
		学科計	40	465	11.6	339	101		3.4	55
	学部計		100	1,462	14.6	1,049	247		4.2	134
経済学部		推薦A	10	28	2.8	28	10		2.8	10
		推薦B	30	93	3.1	93	30		3.1	30
		前期日程	120	503	4.2	459	150		3.1	142
		後期日程	70	537	7.7	279	70		4.0	55
	学部計		230	1,161	5.0	859	260		3.3	237
人文社会学部	人間科学科	前期日程	40	164	4.1	159	45		3.5	44
		後期日程	10	101	10.1	55	12		4.6	12
		学科計	50	265	5.3	214	57		3.8	56
	現代社会学科	前期日程	40	118	3.0	116	43		2.7	40
		後期日程	10	81	8.1	35	14		2.5	11
		学科計	50	199	4.0	151	57		2.6	51
	国際文化学科	推薦	5	27	5.4	27	5		5.4	5
		前期日程	40	119	3.0	114	46		2.5	41
		後期日程	10	69	6.9	30	12		2.5	10
		学科計	55	215	3.9	171	63		2.7	56
	学部計		155	679	4.4	536	177		3.0	163
芸術工学部	デザイン情報学科	推薦	4	25	6.3	25	4		6.3	4
		前期日程	22	61	2.8	55	24		2.3	23
		後期日程	14	92	6.6	54	16		3.4	16
		学科計	40	178	4.5	134	44		3.0	43
	建築都市デザイン学科	推薦	4	31	7.8	31	4		7.8	4
		前期日程	24	95	4.0	90	25		3.6	22
		後期日程	12	90	7.5	53	15	1	3.3	14
		学科計	40	216	5.4	174	44	1	3.9	40
	学部計		80	394	4.9	308	88	1	3.5	83

看護学部	推薦	10	65	6.5	65	10		6.5	10
	前期日程	55	92	1.7	82	60		1.4	60
	後期日程	15	123	8.2	43	15		2.9	12
	学部計	80	280	3.5	190	85		2.2	82
合計		740	4,493	6.1	3,376	952	2	3.5	794
(参考) 平成22年度 合計		740	4,125	5.6	3,074	906	16	3.3	778

※数は帰国子女及び留学生等を除く

※志願倍率＝志願者数÷入学定員

※最終実質倍率＝2次試験受験者数÷(合格者数＋追加合格者数)

情報処理教育における自己教材について

2011/2/18 教養教育実施委員会資料
システム自然科学研究科 渡邊裕司

背景・目的

中期計画には「外国語・情報処理教育において、学生と教員が一体となって自己教材の開発を進め、教育効果を高める。」とある。担当の医薬1年次対象の「情報処理基礎」（前期の水曜3・4時限と木曜3・4時限の4クラス）において、昨年度まで学生によるプレゼンテーションを実施してきたが、優れたプレゼン資料を作成しても発表時に使われるだけであった。そこで、今年度は発表に対して学生と教員による投票を行い、選ばれたスライド資料を次年度以降の教材の一部（良い資料の例）として用いることにより、講義に対する学生のモチベーションの向上をはかる。

授業における実施事項

第11回 @ 6/30, 7/1	教員が教材「プレゼンテーションに向けて」を使って簡単な講義を行った後、「IT 社会」というテーマを与えた。学生はコンセプトマップを作成しながら各自の「サブテーマ」を選定した。
第12回 @ 7/7, 8	学生は自分のサブテーマについて話題を絞り込み、問題設定を行い、序論・本論・結論という発表の構成を考えた。
第13回 @ 7/14, 15	学生が発表用スライドを作成した。必要ならば発表用原稿も用意し、リハーサルを行った。
第14, 15回 @ 7/21, 22, 28, 29	1クラス50名前後の学生がいるため、1クラスを2つに分けてサブテーマごとにプレゼンテーションを実施した（発表時間は1人あたり3分以内）。学生は他の発表を評価し、良いと思った発表を2名まで挙げてもらった。

投票結果

各クラスの各日の最多得票の発表（得票数／総票数（教員票）、サブテーマ）

水 3時限@7/21	水 3時限@7/28	水 4時限@7/21	水 4時限@7/28
Aさん 14/26 (0) 海外における IT	Bさん 9/28 (1) IT と若者文化	Cさん 12/37 (1) P2P	Dさん 9/24 (1) 著作権
木 3時限@7/22	木 3時限@7/29	木 4時限@7/22	木 4時限@7/29
Eさん 10/27 (1) IT と医療	Fさん 8/27 (0) セキュリティ	Gさん 8/29 (0) IT と医療	Hさん 7/27 (0) 放送と通信

来年度以降の実施予定事項

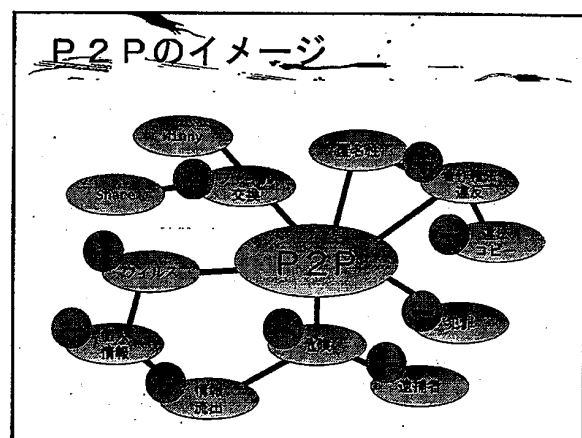
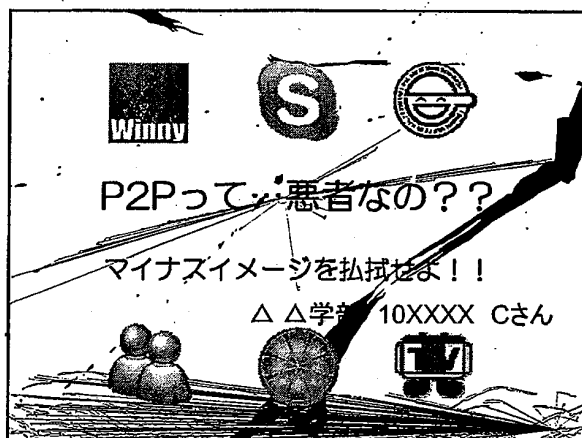
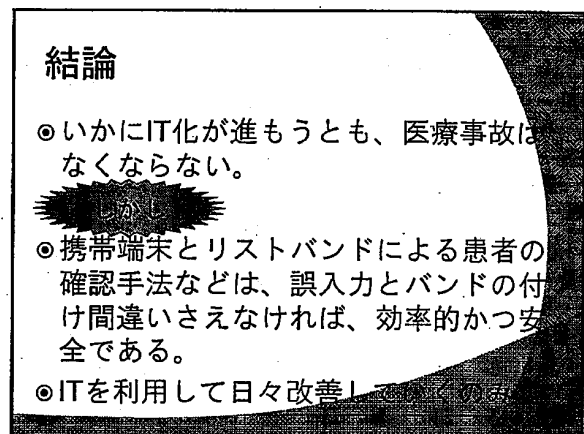
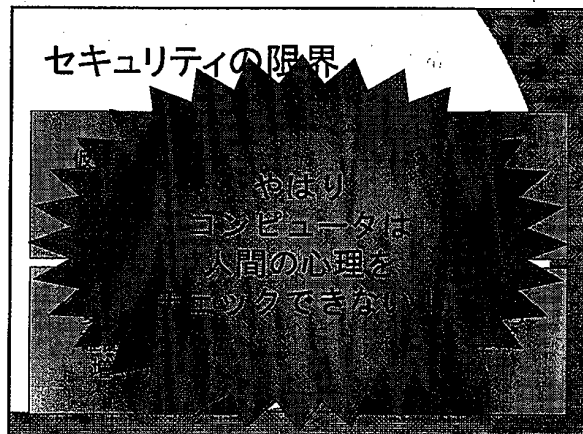
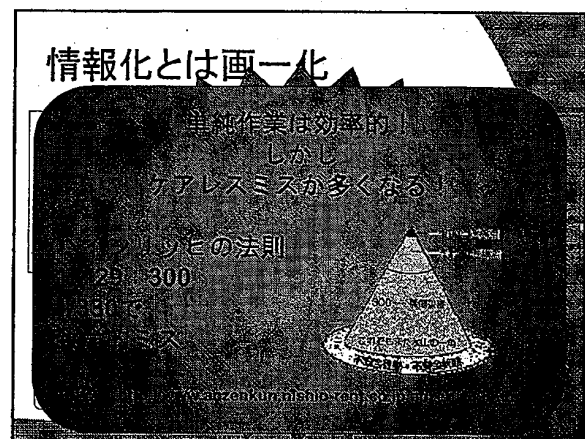
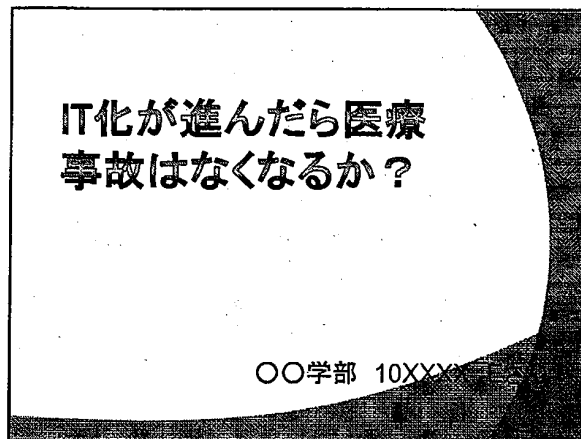
別資料のように、教員作成の教材「プレゼンテーションに向けて」の後に、良い例として選ばれた学生作成のスライド資料を追加して、次年度以降の講義で使用する。なお、次年度の講義で用いることを学生には授業中に説明してあるものの、選ばれた各学生に対して現在同意を得てい

るところであるため、実際にどの学生の資料を用いるかは未定である。

また、今年度の反省として、発表がサブテーマごとに対して投票が個人単位であったために、投票しにくいという意見があった（氏名だけでなく、〇〇サブテーマの△番目の発表や××内容の発表といった投票も認めた）ので、次年度は投票方法の改善が必要である。他にも次年度以降には以下のことを行う予定である。

- スライド資料を教材とすることに対して学生アンケートを行う。
- PowerPoint の資料を変換して、e-learning 教材とする。
- スライドだけでなく話し方なども評価項目であるため、ビデオカメラで発表風景を撮影して、動画を教材とする。
- 好評ならば医薬だけでなく、他学部の「情報処理基礎」でも行ってもらおう。

別資料: 情報処理教育の教材の例



別資料: 情報処理教育の教材の例

プレゼンテーションに向けて

- ▶ レポート(プレゼン・論文)
- ▶ テーマの絞り込み、問題設定
- ▶ 序論・本論・結論
- ▶ 正しい引用の仕方
- ▶ 参考文献
- ▶ 良いプレゼン資料の例
 - ・ Eさん「ITと医療」
 - ・ Cさん「P2P」

教員作成

学生作成

レポート(プレゼン・論文)

- ▶ レポートと感想文は違う(裏面に例)。
- ▶ 「事実」と「意見」を区別する。

(例1)	日本では、高齢化と少子化が進んでいる。	事実
(例2)	日本で高齢化と少子化が進んでいるのは問題だ。	意見

- ▶ 意見の「根拠」をはっきり示す。

(学習技術研究会、2006、pp.103-106)

テーマの絞り込み、問題設定

- ▶ 与えられたテーマについて基本的なことを理解する。
- ▶ 与えられたテーマに対して、自分が関心をもつものに「話題」を絞ることが大切である。
- ▶ それ(話題)は何らかの問題や疑問を感じるものでなければならない。
- ▶ 「問い」を設定する。
 - ・ <例>「日本の食糧事情について」→「日本の食糧事情からみて、現在の政策は適切か？」

(河野、2002、pp.57-59)

(学習技術研究会、2006、pp.109-110)

序論・本論・結論

序論	導入(テーマの範囲設定、動機や理由) 「問い」
本論	証拠を挙げて実証する 出所を明示する
結論	「答え」 論議(客観的評価、残されている課題)

(河野、2002、pp.44-50)

正しい引用の仕方

文化庁のウェブサイトでは、著作物の「引用」を次のように説明している。

引用と言えるためには、[1]引用する資料等は既に公表されているものであること、[2]「公正な慣行」に合致すること、[3]報道、批評、研究などのための「正当な範囲内」であること、[4]引用部分とそれ以外の部分の「主従関係」が明確であること、[5]かぎ括弧などにより「引用部分」が明確になっていること、[6]引用を行う必要性があること、[7]出所の明示が必要なこと(複製以外はその慣行があるとき)(第48条)の要件を満たすことが必要です(第32条第1項)。

- ▶ 引用部分がはっきり分かるように書く(要約して引用する場合も同じ)。
- ▶ 引用が終わったら、そこに「著者名・出版年・ページ数」をマルかっこでくくって示す。
- ▶ 出典を示すために、レポートの最後に、引用する文献の一覧表を付ける。

(専修大学出版企画委員会、2006、pp.147-149)

参考文献

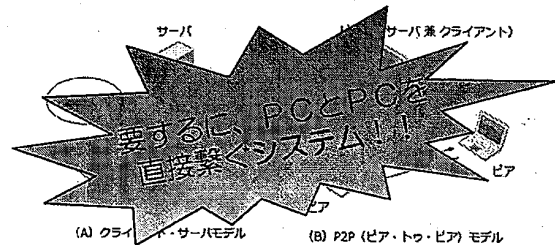
1. 学習技術研究会、『知へのステップ 改訂版』、くろしお出版、2006年
2. 河野哲也、『レポート・論文の書き方入門 第3版』、慶應義塾大学出版会、2002年
3. 専修大学出版企画委員会編、『知のツールボックス—新入生援助(フレッシュマンおたすけ)集』、専修大学出版局、2006年
4. 文化庁『著作権なるほど質問箱 関連用語』、<http://www.bunka.go.jp/chosakuken/>、2010年6月29日閲覧

別資料: 情報処理教育の教材の例

P2Pって何?

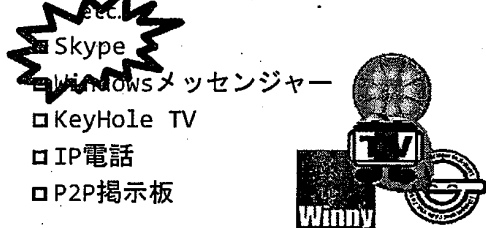
『Peer to Peer』の略で、
ネットワーク上で対等な関係にある端末
間を相互にデータを送受信
する通信方式のこと。そのような
方式を用いてインターネットやシ
ステムの構築など。送り手と
受け手が対等な関係にあるクラ
イアント方式
と対比される用語である。

P2Pのしくみ (クライアント方式と比較)



P2Pが使われているところ

- ファイル共有ソフト
 - Winny, Share, Limewire, Torrent, etc.
- Skype
- Windows メッセンジャー
- KeyHole TV
- IP 電話
- P2P 掲示板



まとめ

- P2Pはシステム(手段)であるので、P2P自体が悪いわけではない。それを使用する人間がどのように使うかによって良くも悪くもなるものである。
- P2P方式とクライアント方式を用途によって使い分けることで、より快適にインターネットを利用できるはずである。

【中期計画 25、年度計画 11】

【授業科目名】事例研究特論(EGZI001020)
Special Lecture on Case Study

【時間割名】事例研究特論(E3205)

【時間割担当】河合篤男

【実施期】前期 【単位数】 2

【曜日・時限】水・2

【対象学生】経済公共政策(3年次) 経済マネジ(3年次) 経済会計(3年次)

□■ 授業の目的・概要

具体的な事例に基づきながら、経営学の枠組みや基本概念への理解を深めめる。

□■ 学習到達目標

事例を分析する枠組みを身につける。

事例をめぐって、議論する能力を高める。

□■ 授業概要

グループに分かれて討議（グループ討議）し、それをもとに全体で話し合う（全体討議）するスタイルを基本とする。

グループ単位で調査・報告も予定している。グループ学生、クラス学生、教員が議論しながら、経営学の基礎概念への理解を深めるスタイルを考えている。

□■ 授業計画

講義期間の初めから3分の2程度は、事例をめぐってグループや全体での討議を行う。

*たとえば、新製品開発の仕組み、温泉ビジネス、航空ビジネス、経営コンサルティングビジネスなど。
後半の3分の1の期間には、グループごとに事例（うまくいっている仕組み、強い企業、成功した人のキャリアなど）を作成し、発表してみる。

□■ 成績判定基準

事例をめぐる議論（約70%）と事例発表（約30%）

□■ 教科書・テキスト

適宜指示する。

□■ 参考文献

□■ 履修要件

□■ 履修上の注意事項

グループ討議や全体討議の内容を濃くするために、定員を12名（上限）とする。

□■ 履修者への要望事項

□■ 連絡先・オフィスアワー

kawaiianclub@aol.com

金曜12～13時。問い合わせは、kawaiianclub@aol.comまで。

□■ 備考

【授業科目名】事例研究特論(BGZI001020)
Special Lecture on Case Study

【時間割名】事例研究特論(B2394)

【時間割担当】出口将人

【実施期】後期 【単位数】2

【曜日・時限】火・3

【対象学生】経済公共政策(3年次) 経済マネジ(3年次) 経済会計(3年次)

□ ■ 授業の目的・概要

事業システムという観点から、企業の持続的な競争力について分析するための方法論について学ぶ。

□ ■ 学習到達目標

自分の力で企業の競争力について分析するためのさまざまな知識、スキルを習得すること。

□ ■ 授業概要

少人数のグループ単位で高業績企業の競争力の源泉を明らかにするべく、資料収集、分析をおこなう。その成果についてプレゼンテーション、ディスカッションをおこなう。それをもとに報告書をまとめる。

□ ■ 授業計画

1. イントロダクション
2. 高業績企業と事業システム
3. 調査対象企業の決定
4. 調査方針の決定
5. 調査の経過報告
6. 調査結果のプレゼンテーション
7. 調査結果についてのディスカッション
8. 報告書の作成

□ ■ 成績判定基準

プレゼンテーションの内容 (20%)
ディスカッションへの貢献 (30%)
報告書の内容 (50%)

□ ■ 教科書・テキスト

□ ■ 参考文献

加護野・井上『事業システム戦略』有斐閣アルマ。

□ ■ 履修要件

□ ■ 履修上の注意事項

□ ■ 履修者への要望事項

□ ■ 連絡先・オフィスアワー

3号館4F 出口研究室 mdeguchi@econ.nagoya-cu.ac.jp
金曜日の12時15分～13時/16時30分から17時30分

□ ■ 備考

【中期計画 25、年度計画 11】

【授業科目名】新事業創造論 (EGSI018020)
New Business Creation

【時間割名】新事業創造論 (E5292)

【時間割担当】角田隆太郎

【実施期】後期 【単位数】 2

【曜日・時限】金 2

【対象学生】経済公共政策(3年次) 経済マネジ(3年次) 経済会計(3年次)

□ ■ 授業の目的・概要

多くの日本企業が、事業の成熟化、国内市場の縮小にともなう海外展開、新興国企業のキャッチアップによる成長率や業績の悪化に苦しみ、新製品や新たな事業分野の展開が必要になっています。この講義では、そのような日本企業で現在求められている、新製品や新事業を企画立案し実施していける人材を育てることを目的とします。

□ ■ 学習到達目標

講義の受講者をテーマごとに3～5人のグループに分けて実際に新事業の企画を行います。学習到達目標は、このグループごとの活動で自分の責任をきちんと果たし、リーダーシップをもってグループをまとめ、事業企画を立案し、企画書をまとめることです。

□ ■ 授業概要

それぞれ最低一つのやってみたい事業のアイデアを考えてきてもらい、それを環境問題とか福祉とか、電気自動車づくりとか、ネットカフェとか、テーマごとに3～5人のグループに分けて、グループごとに事業の企画を進めてもらいます。事業企画のプロセスをいくつかのステップに分けて、講義による基礎知識獲得、グループ作業、中間報告というサイクルを繰り返し、最後に発表会を行います。グループのレポートと個人のレポートを作成し、成績は、グループのレポートとグループ内での貢献、個人レポートで評価します。また交渉次第ですが、名古屋で新しい事業を展開している起業家の方をゲストで呼んでお話を聞かせてもらうこともやりたいと思います。

□ ■ 授業計画

- 1 オリエンテーションと講義：起業家と事業アイデア
- 2 グループ編成
- 3 グループごとの事業アイデアの決定と発表
- 4 講義：事業コンセプト
- 5 グループ作業：事業コンセプトを練る
- 6 グループごとの事業コンセプト発表
- 7 講義：事業システム
- 8 グループ作業：事業システムを考える
- 9 グループごとの事業システム発表
- 10 講義：マーケティング戦略
- 11 グループ作業：マーケティング戦略を練る
- 12 グループごとマーケティング戦略発表
- 13 グループ作業：企画をまとめる
- 14 グループごとの企画発表会

□ ■ 成績判定基準

グループ作業への貢献 20%
グループ・レポート 30%
個人レポート 50%

□ ■ 教科書・テキスト

金井一頼・角田隆太郎編著『ベンチャー企業経営論』（有斐閣）

□ ■ 参考文献

適宜指示します。

□ ■ 履修要件

事業企画に関心があり、積極的に企画にチャレンジする意欲を持ち、グループでの作業に参加して責任を果たすことのできる人。

■ 履修上の注意事項

こんな事業をやってみたいという事業アイデアを最低一つ（できれば3つくらい）考えてくること。そのアイデアがグループのアイデアになるとは限りませんが、個人のレポートに用いてもいいです。

■ 履修者への要望事項

名古屋市大にはグループで何かをやる講義が少ないので、この講義でグループでの学び方にもチャレンジしてください。お友達を誘って参加してもらってもいいですが、なるべく別のグループに入った方が、グループが活性化しておもしろいです。

■ 連絡先・オフィスアワー

tsunodar@econ.nagoya-cu.ac.jp
金曜日の昼休みまたは5限

■ 備考

おもしろい事業企画ができれば、名古屋市内のビジネスプラン・コンテストに出場したいと思います。
関連URL:<http://www.u-net.city.nagoya.jp/new-biz/>

【中期計画 42、年度計画 24】

開講年度	2010
科目名	マーチャンダイジング・デザイン論 Theory of Merchandising Design
専門・教養	専門
担当教員	三上 訓顯、國本桂史、経済学部教員(平成 23 年度から)、非常勤:西口慎二、小川直茂
単位数	2 単位
講義期間・曜日・時限	平成 22 年 9 月 6～9 日 集中講義

副題	次世代商品等の開発における戦略的な知識と提案について
授業形態	講義
授業目的・目標	商品等の開発における必要知識の取得と提案方法の実践的な把握
学習到達目標	商品開発における、企画からデザイン、ブランド化、法制度、提案実務の一貫性ある講述を通じて、戦略的資質を形成する。
授業概要	マーチャンダイジングデザイン論は、商品及びサービス、これを取りまく環境を、消費者に最適化するような方法で開発してゆく分野である。本講義では、特にデザイン開発と市場価値創造を主とし扱い、プロダクトとマーケティング分野の専門知識の融合的な習得を目的とし、次世代商品等の開発に於ける戦略的な開発手法についてテーマ毎に研究する分野である。 戦略的な開発手法とは、開発の理論となるリサーチやコンセプト立案、開発企画やプロダクト、市場ブランド戦略、法制度実務などのプロモーション、及び提案のためのプレゼンテーションからなる。本講義では、世界各地における優れた商品開発事例として取り上げながら、消費者にとって最適化された魅力ある次世代商品開発のあり方を探求してゆく。
授業計画	(授業時間数や社会動向に応じて下記のテーマから選択して講義を行う) 1. マーチャンダイジングの概念と体系について 2. ユーザー調査のリサーチ手法について 3. コンセプトワークについて 4. 戦略的デザイン活用から感性価値創造へ 5. 製品開発から商品開発へ：競争力強化 6. 価値創造デザインワークについて 7. ブランド価値とブランド体系 8. 商品開発とブランド構築 9. ブランド・ポジショニング戦略 10. 関連法制度 1. 11. 関連法制度 2. 12. 関連法制度 3. 13. 商環境における商品・サービス演出について 14. ビジュアル・マーチャンダイジングについて 15. 提案のためのプレゼンテーションについて
成績判定基準	最終提案書の提出 50%、出席 50%。

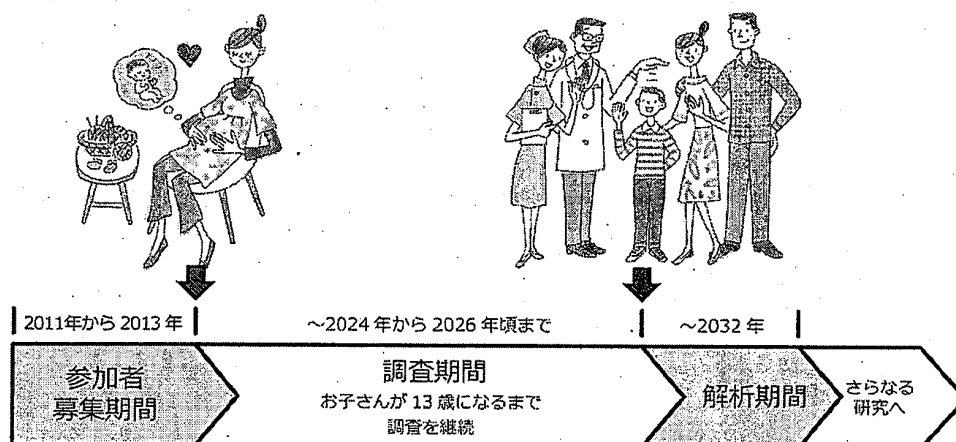
テキスト及び参考文献	テキストは、教員が毎回作成するレジメを用いる。参考文献はレジメで紹介する。講義は、プロジェクターなどを多用します。
注意・要望事項	・尚、授業内容の一部を、企業自治体等見学などの学外授業に振り替える場合もある。 ・経済学部との共同開講。
オフィスアワー・連絡先	事前にメールにて訪問日時の予約をいれること。 (三上)、mikami@sda.nagoya-cu.ac.jp、 (國本)、 (徳山)、 (西口)
備考	三上研究室公式ホームページ:http://www.sda.nagoya-cu.ac.jp/mikami/ カジュアル版 http://web.mac.com/team_mikami/iWeb/Site_top/Welcome.html 國本 徳山

子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）について

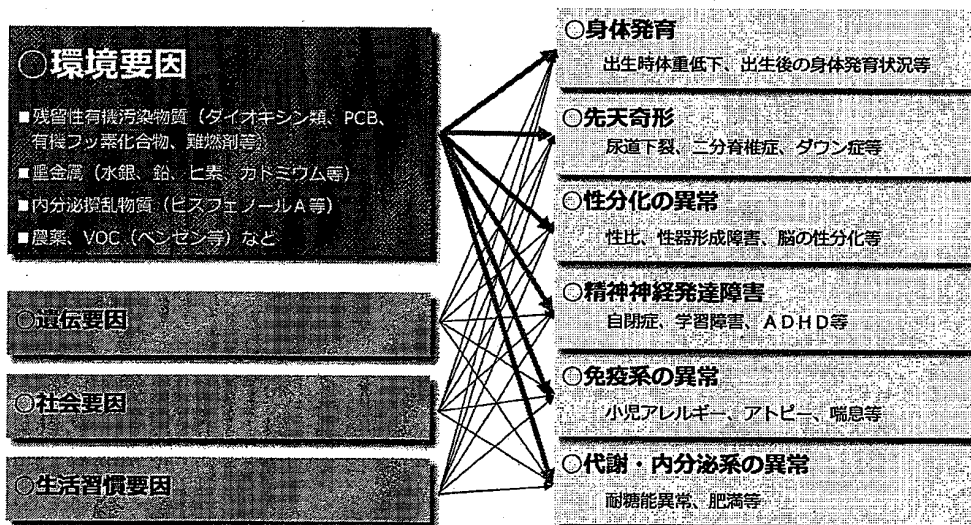
① エコチル調査とは？

環境省は平成 23 年 1 月 24 日から、全国 10 万組の親子を対象に、小児ぜんそくやアレルギー疾患など子どもの病気や健康に環境中の化学物質が与える影響を妊娠段階から調べる「エコチル調査」を全国で開始しました。愛知県では名古屋市立大学エコチル調査愛知ユニットセンターが拠点となり、1 月 31 日（月）より、医療機関や保健所を通じて 6,000 組の参加者の募集を行います。

おなかの中にいる時から13歳まで。
ちゃんと調べたいから長い時間をかけます。



中心仮説：「胎児期から小児期にかけての化学物質曝露が、子どもの健康に大きな影響を与えているのではないか？」



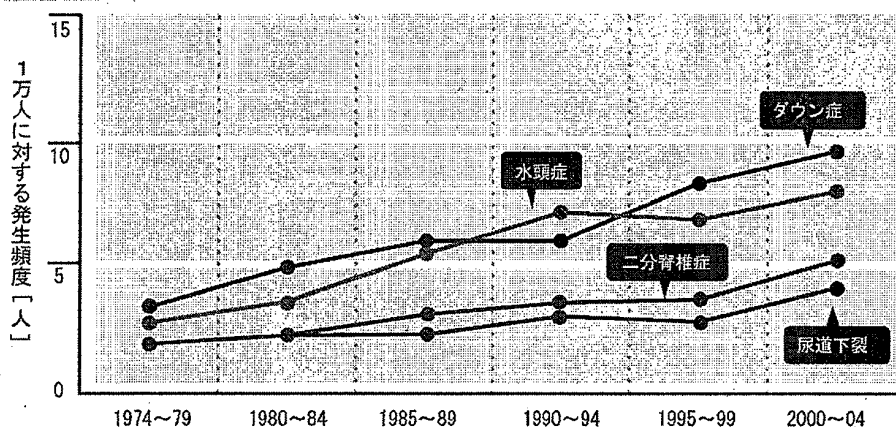
② なぜ調査を行うのでしょうか？

近年、不妊・流産、先天性異常(ダウン症など)や神経系異常(自閉症、発達障害など)、児童の喘息・アトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患の増加など、子どもの健康を取り巻く状況が変わりつつあります。とりわけ、胎児期や小児期は環境化学物質などの環境要因の影響を受けやすいことから、子どもの健康に影響を与える要因を明らかにし、子どもたちが健やかに育つ環境を実現していくことが大切です。次世代の子どもたちに安全な未来を引き継ぐために、大学と行政・医療機関そして地域社会が連携してこの課題解決に早急に取り組む必要があります。

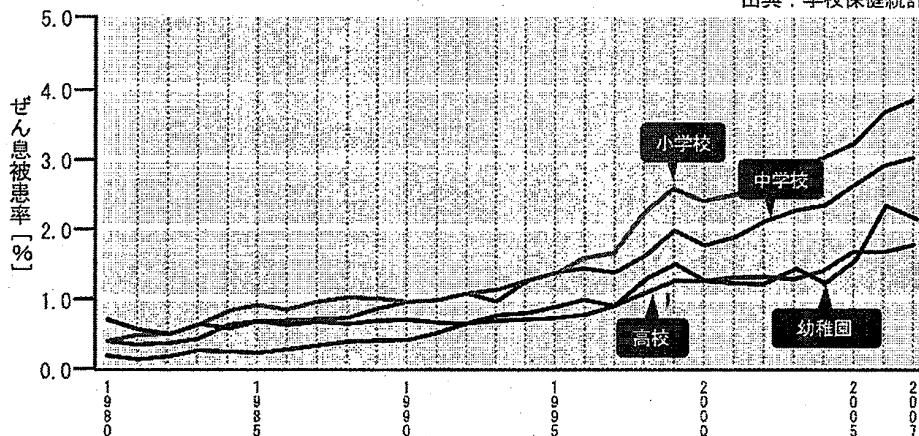


近年、子どもの病気が増えています

出典：国際先天異常監視機構 (ICBDSR)



出典：学校保健統計



免疫性疾患(小児ぜん息)は
20年間で3倍に

③ 愛知県ではどの地域で調査が行われるのでしょうか？

全国 15 地区、約 320 の医療機関で募集を行います(2011 年 1 月現在)。愛知県の調査対象地域は一宮市および名古屋市北区です。一宮市では 9 協力医療機関、名古屋市北区では 6 協力医療機関(2011 年 1 月現在、今後増える予定)にご協力いただき、1 月 31 日(月)から 3 月末にかけて段階的に順次募集を開始していきます。

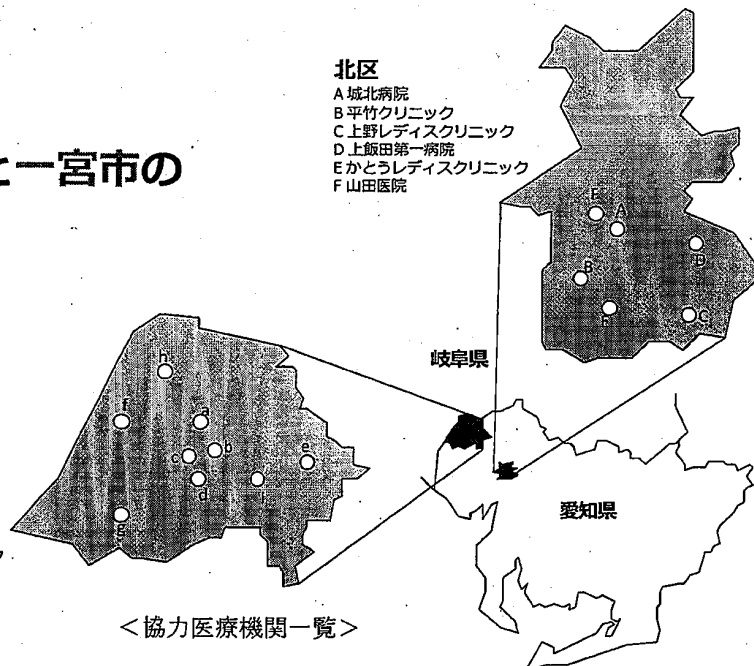
**東海地域：
名古屋市北区と一宮市の
6,000組**

一宮市

- a 一宮市立市民病院
- b 大旗会病院
- c 足立産婦人科
- d 田中クリニック
- e 金子産婦人科
- f 後藤マタニティクリニック
- g 加藤レディースクリニック
- h 産婦人科はっとりクリニック
- i つかはレディースクリニック

北区

- A 城北病院
- B 平竹クリニック
- C 上野レディースクリニック
- D 上飯田第一病院
- E かとうレディースクリニック
- F 山田医院



<協力医療機関一覧>

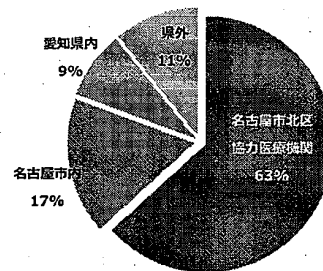
<募集開始スケジュール> ※予定

- ・1 月 31 日スタート : 西部医療センター城北病院
- ・2 月中旬よりスタート : 一宮市 2 医療機関(予定)
- ・3 月上旬よりスタート : 一宮市・北区 2 医療機関(予定)
- ・3 月下旬以降、10 医療機関でも順次開始できるよう、準備中。

■ 名古屋市北区（平成22年）

北区人口 16.6万人（名古屋市226万人）

北区年間出生数 **1,385人／年**
（名古屋市2万人）



名古屋市北区在住者の分娩地域（推計値）

■ 一宮市（平成22年）

人口 38.5万人

年間出生数 **3,587人／年**

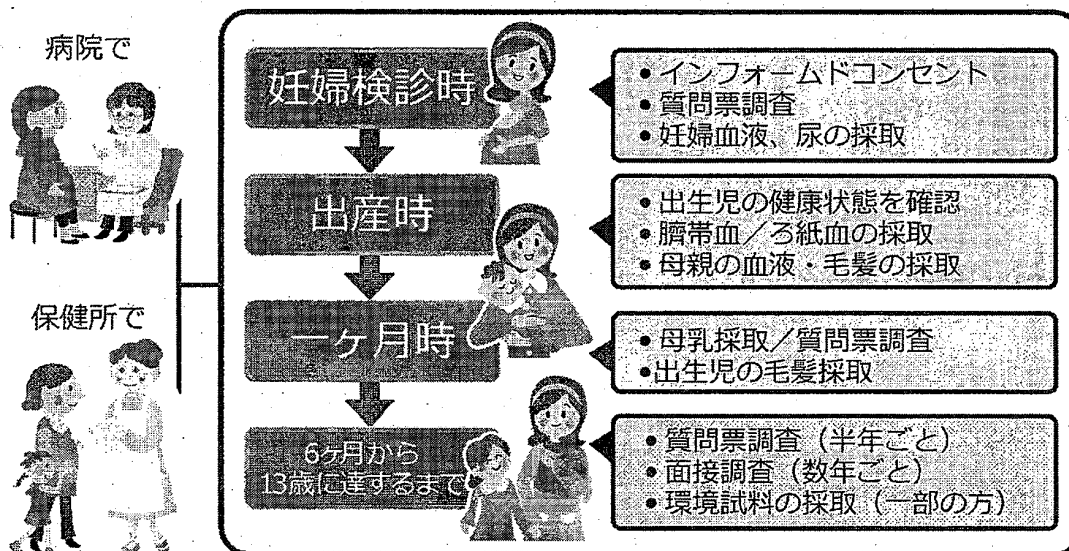
＜両地域の選定理由＞

- 典型的な都市部
- 人口の流入の少ない地域
- 地域での分娩割合が高いこと
- 医療機関・行政などとの協力体制

＜北区・一宮市の出生数に関する情報など＞

④ 参加者はどのようなことをするのでしょうか？

病院や保健所（名古屋市北区のみ）にて、妊婦様に本調査への協力を呼びかけます。調査内容の説明および同意書を頂いた後、薬剤などの化学物質や喫煙、食習慣、既往歴などの質問票に回答頂くほか、妊婦検診時に行う採血・採尿などを少量分けて頂き、体内の化学物質を分析します。出産入院時には、お母様から血液と臍帯血、および毛髪を数本頂きます。赤ちゃんからは、新生児検査のためのろ紙血の採取の際、血液を数滴頂きます。出産後は母子の血液や毛髪、母乳などの採取の他、半年に1回程度質問票に回答頂くほか、面接調査なども予定されています。



【中期計画 90、年度計画 54】、【中期計画 95、年度計画 55】

平成 22 年度 Human & Social サイエンス・カフェ 実施概要

回	テーマ	開催日	受講者数
34	アメリカ文学とボーダーランド	4 月 18 日	12 名
35	文学の中の丸善	5 月 16 日	20 名
36	注意の初期発達:“いたいの、いたいの飛んで行け”の真実	6 月 20 日	17 名
37	税制改革の政治学—公平な社会のための税を考える—	7 月 18 日	12 名
38	COP10 と名古屋の観光まちづくり	8 月 22 日	12 名
39	青年の自立と家庭・地域の教育力	9 月 19 日	7 名

【中期計画 90、年度計画 54】

平成 22 年度マンデーサロン実施概要

人間文化研究科の教員・院生・研究員と市民との研究交流の場として開催されており、各回ごとに担当者教員がそれぞれのテーマについて発表を行っている。

平成 22 年度開催記録

回	開催日	テーマ	参加人数
28	4 月 19 日 (月)	ひめゆり 平和への祈り展に寄せて	25 名
29	5 月 17 日 (月)	日本のシェイクスピア上演	18 名
30	6 月 21 日 (月)	心理学から見る「私はなぜ私なのか」という問い	18 名
31	7 月 19 日 (月)	特別展 ポンペイ展 世界遺産 古代ローマ文明の奇跡	10 名
32	9 月 27 日 (月)	桃山文化と御殿の深〜い関係	28 名
33	12 月 20 日 (月)	開発事業の記憶と地域活性化： 御母衣ダム質問紙調査の単純集計データ (速報値) 報告	16 名
34	2 月 21 日 (月)	『死の商品化』とじぇんだー —「生命保険」と家族・ライフコース変動—	10 名
35	3 月 14 日 (月)	ジェンダーの視点から考える民法の婚姻規定 —「世間の常識」と憲法理念—	24 名

名古屋市立大学開学 60 周年記念シンポジウム開催報告

1. 国際シンポジウム

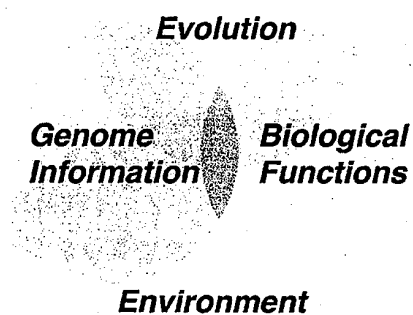
「生物多様性の科学 — ゲノム・進化と環境 —」

平成 22 年 7 月 31 日～8 月 3 日 ホテル・ルブラ王山

2. 市民公開シンポジウム

「食からみる生物多様性の世界」

平成 22 年 7 月 31 日 名古屋市科学館



1. 国際シンポジウム 「生物多様性の科学 — ゲノム・進化と環境 —」

日 時 平成22年7月31日(土)～8月3日(火)

場 所 ホテル・ルブラ王山

内 容 1. プレナリーレクチャー(基調講演)

講演者: ジョルジョ・ベルナルディ

(国際分子進化学会会長、国際生物科学連合会長)

ポール・エペール(オンタリオ生物多様性研究所長)

岡田 典弘(東京工業大学教授)

2. セッション(口頭発表)

発表者 35名(国外14、国内外国人1、国内日本人20)

3. ポスターセッション

発表者 103名(国外22、国内外国人10、国内日本人71)

4. トレーニングコース

参加者 6名(タイ2、ベトナム1、マレーシア1、フィリピン1、スリランカ1)

参加者および参加国

参加者総数 : 207名(日本人 158名、外国人 49名)

参加国数 : 日本を含め21カ国

アメリカ、ベトナム、カナダ、韓国、中国、インド、インドネシア、イタリア、
日本、ケニア、マレーシア、ミャンマー、オーストラリア、パキスタン、フィリ
ピン、ポーランド、スロバキア、サウジアラビア、スリランカ、タイ、台湾

概 要

名古屋市立大学開学60周年記念事業の一環としてCOP10開催を契機に、生物多様性についての知識を深め、共通の認識を広げ、また将来の方向性を考えるための科学的国際シンポジウムを開催しました。

本シンポジウムは、生物の多様性を遺伝子・ゲノムレベルから理解すること、そしてアジアモンスーン地域がヨーロッパ大陸、アメリカ大陸と比較して、生物多様性に富み、維持されていることに注目し、アジアの中核及び若手研究者を招聘して、アジアにおける生物多様性研究のネットワークの基礎を作ることを目指しました。

具体的には、「生物多様性の科学—ゲノム・進化と環境—」という広範な課題を5つのセッションに分け、招待講演者の基調講演の後、順次発表討論を行い、多方面からの活発な議論を行いました。参加者からは、他分野の話を聞くことができて大変参考になった、との感想が数多く聞かれ、またシンポジウムの全期間を通して、各国各分野間での交流が深まり、大きな成果をあげることができました。

トレーニングコースは、東南アジアの若手研究者にDNA barcodingの技術を習得してもらうために実施したもので、こちらも参加者全員の満足を得られ、十分に目的を達成できました。

この国際シンポジウムを契機として、今後の研究者間の交流をさらに深め、共同研究の進展を目指します。

「生物多様性の科学 ―ゲノム・進化と環境―」



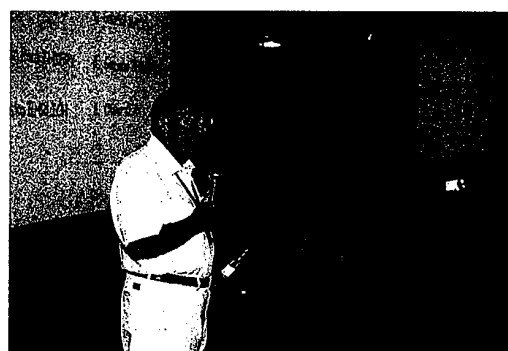
開会の辞
戸蒔 創（名古屋市立大学学長）



基調講演 1
ポール・エベール
（オンタリオ生物多様性研究所長）



基調講演 2
岡田 典弘
（東京工業大学教授）



基調講演 3
ジョルジョ・ベルナルディ
（国際分子進化学会会長、国際生物科学連合会長）



口頭発表会場



ポスター発表会場

2. 市民公開シンポジウム 「食からみる生物多様性の世界」

日 時 : 平成22年7月31日(土) 10:30~12:15

場 所 : 名古屋市科学館・サイエンスホール

講演者 : 渡邊 和男 (筑波大学大学院生命環境科学研究科)

「農業食料遺伝資源多様性の保全と利用」

本田 悠介 (神戸大学大学院国際協力研究科)

「食品産業における微生物資源の利用と ABS 交渉の影響」

西川 芳昭 (名古屋大学大学院国際開発研究科)

「作物遺伝資源の農民参加型管理を支える制度の現状と課題」

岡部 貴美子 (森林総合研究所・森林昆虫研究領域)

「生物多様性がもたらす食の恵み」

司 会 香坂 玲 (名古屋市立大学大学院経済学研究科)

総合司会 森山 昭彦 (名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科)

参加者数 : 事前申込者 : 226 名 (内訳 一般 : 206 名 学内 : 20 名)

当日参加者 : 213 名 (内訳 一般 : 194 名 学内 : 19 名)

概 要

生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)の開催にともない、国内のあちこちで環境問題や生物多様性に関するイベントが盛んに行われ、自然保護や環境保全の重要性に対する理解が深まっている一方、COP10における主要課題である遺伝子資源へのアクセスとその利用から生じる利益の公正、公平な配分というテーマ(ABS問題)は、重要な問題でありながら、一般にはほとんど理解されていません。

そこで、本シンポジウムでは、この遺伝子資源の公正配分の現状について、「食からみた生物多様性」を切り口に、具体的な例を取り上げ、議論を行いました。

4人の講演者から、我々の食卓の上にある食物と生物多様性が深い関係にあること、例えば同じ貝や米でも、色や味が違う、野菜や果物の栽培には昆虫や動物の役割が欠かせないなど、遺伝子、種、生態系それぞれのレベルで食物と生物多様性はつながりあっており、遺伝子、種、生態系それぞれのレベルにおける世界と日本の現状や課題を、事例を交えながら紹介していただき、なぜ生物多様性が重要なのかについての議論を行っていただきました。

講演会修了後には、参加した市民の方々から、非常に分かりやすく、興味深かったとの声も多数いただき、生物多様性への理解を深めていただくうえで、有意義な講演会とすることができました。

「食からみる生物多様性の世界」



開会の言葉：戸苅 創（名古屋市立大学学長）



農業食料遺伝資源多様性の保全と利用
渡邊 和男（筑波大学大学院生命環境科学研究科）



食品産業における微生物遺伝資源の利用と ABS 交渉の影響
本田 悠介（神戸大学大学院国際協力研究科）



作物遺伝資源の農民参加型管理を支える制度の現状と課題
西川 芳昭（名古屋大学大学院国際開発研究科）



生物多様性がもたらす食の恵み
岡部 貴美子（森林総合研究所・森林昆虫研究領域）



パネルディスカッション

【中期計画 95、年度計画 55】

平成 22 年度市民公開講座実施概要

担当学部・研究科、講座名	開催日時	受講者数
医学研究科 睡眠と健康	11 月 20 日 (土) 13:00~17:00	117 名
薬学研究科 最先端科学からの伝承薬まで<薬学部 の幅広い研究ワールドご紹介!>	10 月 23 日 (土) 10:00~16:00	73 名
経済学研究科 経済危機と今後の日本経済	10 月 9 日 (土) 14:00~16:00	93 名
人間文化研究科 子どもと環境教育—乳幼児期にこそ必 要なこと	11 月 27 日 (土) 10:40~12:10	20 名
人間文化研究科 公共空間におけるマナーと環境美化 —高度成長の日中比較研究	11 月 1 日 (月) 18:00~19:30	25 名
芸術工学研究科 住まいを考える	10 月 16 日 (土) 13:00~15:30	31 名
看護学部 「元気」をつくる	11 月 23 日 (火・祝) 13:30~15:30	70 名
システム自然科学研究科 生物多様性と遺伝子	11 月 6 日 (土) 10:00~16:00	25 名

【中期計画 95、年度計画 55】

平成 22 年度授業公開実施概要

担当 部局	開設講座・テーマ	開催日時	受講者数
経済学部	前期：「比較経済システム論」	4 月 13 日～7 月 27 日 毎週火曜日 13:00～14:30	30 名
	後期：「応用公共経済学」	9 月 29 日～1 月 26 日 毎週水曜日 13:00～14:30	30 名
人文社会学部	前期：「海域世界論」	4 月 13 日～7 月 22 日 毎週火曜日 10:40～12:10	15 名
	前期：「翻訳文学論」	4 月 13 日～7 月 27 日 毎週木曜日 10:40～12:10	14 名
	後期：「現代都市問題」	9 月 27 日～1 月 24 日 毎週月曜日 10:40～12:10	10 名
	後期：「総合科目・名古屋と観光」	10 月 1 日～1 月 21 日 毎週金曜日 13:00～14:30	23 名
芸術工学部	前期：「建築史」	4 月 15 日～7 月 29 日 毎週木曜日 9:00～10:30	8 名
	後期：「ビジュアルデザイン論」	10 月 1 日～1 月 21 日 毎週金曜日 9:00～10:30	10 名

【中期計画 95、年度計画 55】

平成 22 年度 サイエンス カフェ イン 名古屋 実施概要

回	テーマ	開催日	受講者数
43	星の誕生と進化の話	4 月 16 日	42 名
44	自立の鍵は筋パワー ～あなたの足は大丈夫～	5 月 21 日	48 名
45	インターネットの落とし穴 ～ネット社会とセキュリティ～	6 月 18 日	40 名
46	野球の基本技術向上の方策は？	7 月 16 日	30 名
47	人類の未来を支える植物バイオテクノロジー	8 月 20 日	38 名
48	ホタル ～蛍狩りの文化から最先端バイオイメージングまで～	9 月 17 日	30 名
49	子孫を残すしくみに見る生物多様性	11 月 19 日	28 名
50	分光計測で何がわかるか ～光を色、時間、方向で分ける～	12 月 17 日	40 名
51	バイオ液体燃料の功と罪	1 月 28 日	39 名
52	愛知県内の植物調査の現状	3 月 18 日	19 名

名古屋市立大学・日本政策投資銀行連携
市民公開シンポジウム

主催：公立大学法人名古屋市立大学
株式会社日本政策投資銀行
後援：名古屋市、中日新聞社、
一般財団法人日本経済研究所、
(独)中小企業基盤整備機構中部支部
名古屋医工連携インキュベータ

「くらしの中のバイオテクノロジー」 ～バイオの安心・安全～

21世紀はバイオの時代！バイオ？バイオテクノロジー？

われわれ市民の生活・くらしに影響し、
切っても切れない縁がある「バイオテクノロジー」を
知って、みんなで豊かなくらしを！

参加無料

日時：平成23年1月13日（木）
13:00～16:00

会場：中区役所・大ホール
定員：300名

申込方法

申込：往復はがき、FAX、Eメール
（住所、氏名、連絡先、
「シンポジウム希望」と記入）

締切：平成22年12月24日（金）必着

申込・問合せ先

：名古屋市立大学事務局学術課

〒467-8601（住所不要）

電話：052-853-8041

FAX：052-841-0261

E-mail：kikaku7@adm.nagoya-cu.ac.jp

プログラム

13:00～

■基調講演

「くらしの中のバイオ」

講師：武田 穰

（名古屋大学産官学連携推進本部

連携推進部長・教授）

14:00～16:00

■パネルディスカッション

「バイオの安心・安全」

◎コーディネーター：今川 正良

（名古屋市立大学副学長・理事）

◎パネリスト：佐々 義子

（NPO法人くらしとバイオプラザ21主席研究員）

：岸上 幹央

（名古屋市民経済局産業部長）

：山口 泰久

（DBJキャピタル株式会社取締役）

：牧野 利明

（名古屋市立大学大学院薬学研究科准教授）

：武田 穰

（基調講演講師）

【中期計画 113、年度計画 60】

科目名	デザインと持続可能な未来社会	大学名	名古屋市立大学
担当教員	栗原康行(芸術工学研究科准教授)		
学年配当	1～4年	単位数	2単位
開講期間	夏季集中 9月13日～17日の5日間	開講時間割	2限目から4限目の3コマ 10:30～16:45
教室	北千種キャンパス北千種分館2階大講義室	募集定員	250名(先着順)
履修条件	特になし	募集時期	4月

講義概要(シラバス)

【授業の目的・目標】

テーマは、『君は何を作るのか！？～ものを生み出すことへの取り組み方と動機～』。ものづくりに必要なのは何か？技術なのか？知識なのか？モチベーションなのか？さまざまな視点からこの問題を考察していく。また、将来を決めるとはどういうことなのか？ゆとり教育世代の学生にもものづくりの先人たちのメッセージを贈る。

【学習到達目標】

本講座は「持続可能な未来社会実現に対してデザインや芸術・ものづくりなどの視点からの提案」、「技術開発」「問題解決能力を養うこと」を目的とする。そのために、デザインやものづくりへのビジョン、当地域産業界のデザインへの期待などを概説し、次に一線で活躍するものづくりの先人たち、例えば漫画家、映画監督、イラストレーターなどに業界の現状を聞く。さらに、雑誌編集者、広告代理店、テレビ局、製造メーカ、印刷業界などでの具体的なデザイン業務の事例紹介等により理解を深める。

【授業概要・計画】

講義は、個人あるいは機関・企業のなかにおいて、第一線で活躍中のデザイナー等により構成される。

予定としては、漫画家の松本零士先生、カンヌ映画祭受賞監督・諏訪敦彦先生、A long vacationの夏のプールサイドを描いたイラストレーターの永井博さんほか各界で活躍するアーティストやデザイナーから、第一線での経験を踏まえた講義をして頂く。一部の講義では、司会と聞き手に村中智絵（メーテレ・アナウンサー）ほかを招く。

【講師予定】

- ・ 松本零士(まつもと れいじ) 漫画家。代表作に「銀河鉄道999」、「宇宙戦艦ヤマト」、「キャプテンハーロック」、「男おいどん」ほか。<http://www.leiji-matsumoto.ne.jp/>
- ・ 永井博(ながい ひろし) イラストレーター。作品にA LONG vacation CDジャケット作曲・大滝詠一、作詞・松本隆ほか。<http://www.hiroshinagai.com>
- ・ 諏訪敦彦(すわ のぶひろ) 映画監督、東京造形大学学長。映画『M/OTHER』で、第52回カンヌ国際映画祭の国際批評家連盟賞を受賞。
<http://eigageijutsu.com/article/45420126.html> <http://hwbb.gyao.ne.jp/mochips-pg/contents.html>
- ・ 入道隆行(にゅうどう たかゆき) クリエイティブ・ディレクター。代表作に「もういちど月へ」「日本再発見マップ」文化庁メディア芸術祭優秀賞作品ほか。
<http://plaza.bunka.go.jp/festival/2006/entertainment/000182/index.php>
- ・ 村中智絵(むらなか ともえ) メーテレ・アナウンサー。担当番組は「どですか!」ほか。
<http://www.nagoyatv.com/ana/blog/muranaka/index.sms>
- ・ 土居輝彦(ワールドフォトプレス編集長。<http://www.monomagazine.com/>)
- ・ 電通クリエイティブ・ディレクター (<http://www.dentsu.co.jp/>)

その他、トヨタ自動車、INAX、エクシング (<http://www.xing.co.jp/>) などの企業が講師派遣。

※以上敬称略・順不同。HPアドレス等は参考の情報であり、必ずしも本人の公式HPアドレスではありません。

テキスト・参考文献	必要に応じて講義当日に資料を配布する。 パワーポイント・DVD 等上映するので筆記用具やメモ・ノートを必ず持参すること。 会場の照度を落として上映するためペンライトなど持参ください。
試験・評価方法	出席・レポートの総合評価
別途必要な経費	必要があれば授業内で指示します。
その他特記事項	・ 産学連携事業として、名古屋商工会議所冠講座として実施する。 ・ 冷房が効きすぎる場合があるので、対応できる服装を用意すること。 ・ メモ用のテーブルが非常に狭いため、各自メモ用のボードなど持参すること。 ・ 飲食・私語・居眠りなどは厳禁。単位認定できない場合があります。 ・ 詳細については、市大ホームページ (http://www.sda.nagoya-cu.ac.jp/) を随時確認のこと。 ・ 講師に対して事務局の許可無くサインや写真撮影などをお願いしないこと。

【中期計画172、年度計画110】

管理経費の前年度比較

(単位：千円)

区 分	22年度	21年度	差額	増減率
消耗品・備品費	134,459	138,595	△ 4,136	△ 3.0 %
光熱水費	19,124	20,258	△ 1,134	△ 5.6 %
賃借料	23,486	23,541	△ 55	△ 0.2 %
修繕費	25,164	25,366	△ 202	△ 0.8 %
業務委託料	238,305	231,773	6,532	2.8 %
報酬謝金	13,111	14,658	△ 1,547	△ 10.6 %
その他	53,617	50,772	2,845	5.6 %
計	507,266	504,963	2,303	0.5 %

【中期計画173、年度計画111】

電気・ガス・水道の使用量等

エネルギー使用量

	電気(kWh)	ガス(m3)	水道(m3)
20年度	41,420,195	4,433,117	388,739
21年度	41,527,400	4,298,969	373,893
22年度	40,987,952	5,153,921	372,353

経常経費

	経常経費(千円)
20年度	29,674,638
21年度	30,604,565
22年度	30,611,498

エネルギー使用量／経常経費

	電気(kWh/千円)	ガス(m3/千円)	水道(m3/千円)
20年度	1.39581	0.14939	0.01310
21年度	1.35690	0.14047	0.01222
22年度	1.33897	0.16837	0.01216